

■佐々木喜善 民俗研究家。柳田国男に語った郷里の伝承が「遠野物語」に。昔話の採集に努めたが、不如意のうちに早世。
ささききよし
帝国大学始・1886＝ 岩手県遠野(上閉伊郡土淵村)で、生まれる。前年末に父厚楽茂太郎が急死して、母タケを除籍したため、旅籠兼茶屋を営む祖母厚楽長助・チエの子として、届け出され、外祖父佐々木万蔵の養孫となる。

帝国憲法発布1889＝ 3歳： もっぱら家の中、夢の中に身を置いて育ち、

大本教・・・1892＝ 6歳： 土淵小学校に入学。

日清戦争始・1894＝ 8歳：
日清戦争終・1895＝ 9歳：
白馬会・・・1896＝10歳： 補習科二年に進み、

子規句歌革新1898＝12歳： 卒業。遠野小学校高等科に入学し、放課後は、漢文塾に通う。
作文の成績良く、時々張り出されるなどして、
ピアノ/国産化・1900＝14歳： 卒業。万蔵の勧めで岩手県立盛岡中学校を受験するも失敗し、盛岡市内の私立江南義塾中学部に入る。
わがままに育ってきたため、寮の厳しい規則に閉口、
教科書疑獄・1902＝16歳： 私立岩手医学校に入学するが、医学になじまず、下宿先に蒐集した土器・石器を運び込み、盛岡付近の発掘
もして記録したり、鏡花の小説などを乱読、同級生と東京見物したりし、
日露戦争始・1904＝18歳： 万蔵に無断で、中退、病人のような姿で帰郷。鏡花の妖しい世界に憧れ、半ば出奔する形で、
日露戦争終・1905＝19歳： 上京し、本郷の哲学館教育部に入学。創作を志し、諸紙誌に短篇小说・短歌・詩を発表し始め、
満鉄発足・・・1906＝20歳： 下宿屋で作家水野葉舟と出会い、すっかり打ち解けるようになり、
韓国反日暴動1907＝21歳： 祖父万蔵、養父久米蔵が死去し、佐々木家の家督相続。早稲田大学師範部聴講生となる。華々しく創作、
アラビヤ創刊・1908＝22歳： 葉舟の紹介で、柳田国男を識り、郷里の伝承を語る。文壇登場を期待する一方、柳田に論され、ニコライ
神学校で、ロシア語を習い、秋田雨雀からエスペラント語も習う。

伊藤博文暗殺1909＝23歳： 病気のため中退して帰郷。葉舟が来訪、その話を聞いて柳田も遠野を訪れるが行き違いとなるが、
韓国併合・・・1910＝24歳： 盛岡の岩手入院、看護婦千田マツノを識る。＊自分の話を柳田が自家出版した「遠野物語」に驚嘆。
大逆事件判決1911＝25歳： 長女タキサが誕生。女問題やうつ病で、茨城県港町の平野屋別荘で病氣療養後、遠野町に移る。{人類学雑
誌}に「遠野雑記」を寄稿して掲載され、
明治天皇没・1912＝26歳： 推されて土淵村農会長・青年会長となり、閑職ながら村政に関わり始める。相変わらず創作寄稿を続け、
大正政変・・・1913＝27歳： ＊柳田が高木敏雄と創刊した{郷土研究}に資料「遠野雑記」を寄せて以降、
第一次大戦始1914＝28歳： 長女と妻を入籍。長男が誕生するも死去。図書館勤務を世話されるも続かず。研究「ザシキワラシ」、
21ヶ条要求・1915＝29歳： 次男広吉が誕生。郡農会議員・県農会議員にもなる。研究「オシラサマとオクナイサマ」など、
民本主義・・・1916＝30歳： 資料「瓜子姫子童話四種」「陸中紫波地方の桃太郎」。ほかの雑誌にも研究や資料を寄せる。
ロシア革命・1917＝31歳： 三男光広が誕生。土淵村村会議員となる一方、蒙古行きを思いついて挫折するなど気も散りやすく、
本格政党内閣1918＝32歳： 長女を若と改名届け。北海道を旅行。東京で柳田国男と会う。
ペルシヤ条約・1919＝33歳： ザシキワラシの蒐集に専念、「奥州のザシキワラシ」完結し、柳田に送り細かく手直しされて、
大暴落・・・1920＝34歳： 祖母が死去。柳田らと三陸海岸を旅行。ネフスキー土淵村を来訪。土淵村信用組合監事に就く。刊行。
原敬首相暗殺1921＝35歳： 昔話採集に意をそそぎ始め、隠念仏の開書きに回る。
水平社結成・1922＝36歳： 村会議員二期当選。「江刺郡昔話」「和賀郡昔話」「岩手郡昔話」が刊行されるも、生きて行く自信を失い、
護憲三派圧勝1924＝37歳： 長崎から来訪した本山桂川と親交するようになり、結果として柳田との溝が深まって行くなか、
治安維持法・1925＝39歳： 長女が脊髄カリエスで入院。土淵村村長に当選して、泥沼に入り、
円本時代始・1926＝40歳： 四男が誕生。「紫波郡昔話」「東奥異聞」刊行に続いて、
金融恐慌・・・1927＝41歳： ＊代表作「老嫗夜譚」を刊行するも、村政では改革案や新事業に挫折、以後、資金の返済に追われ、
共産党事件・1928＝42歳： 家も処分。内臓も不調となり、東北大附属病院で診察を受ける。神職の資格を得て、
世界恐慌・・・1929＝43歳： 任期終ると逃げるように仙台の借家に転居。民俗研究に打込み、仙台中央放送局{東北土俗講座}に関与、
海軍軍縮条約1930＝44歳： {河北新報}に小説「赤松庫吉」連載するも不評で打切。「東北の土俗」として出版され、担当分収録。
満州事変・・・1931＝45歳： 長女が死去して悲嘆の一方、本山の世話で、生涯の集大成となる「聴耳草紙」を刊行、
五一五事件・1932＝46歳： ＊独力で{民間伝承}を創刊するも二号で廃刊、なお、諸誌に発表し続けるも、深刻な手元不如意になり、
国際連盟脱退1933＝47歳： {民間伝承}贈って書簡をくれた宮次賢治の病死を聞くとまもなく、没した。